



戦没者への想いを捧げた追悼式 〜世界平和を願い、後世に語り継ぐ〜

9月25日(金)に、農村環境改善センターで江田島市戦没者追悼式が挙行されました。戦後70年の節目の年となった同式には、約300人の参列者が戦没者の御霊に献花を



▶ 献花を行い、戦没者を悼む参列者

捧げ、海上自衛隊呉音楽隊が追悼の想いを込めて演奏を行いました。江田島市遺族連合会の御堂岡勝敏会長は謝辞で、戦地での父の様子や父が亡くなった後の母の苦勞、そして戦後見つけた父の遺言書について話され、また、戦地で亡くなった多くの方々のことをいかにして後世に伝えるかという課題にも触れながら、これからも世界平和に貢献していきたいと述べられました。



▶ いかにも後世に伝えるか話す御堂岡会長

空き家の整理を学ぶ

9月19日(土)、江田島コミュニティセンター(江田島町小部門モノ・ココ整理net主宰の湯上みどりさんを講師に招き、「空き家になったとき、なる前にしておく整理」と題して、講演会を開催し、65人の方が参加しました。

この講演会は「空き家問題」対策の一環として開催し、空き家所有者の悩みである「物の片付け」に視点を置いた内容に参加者は耳を傾けました。



▶ 「物の片付け」について話す湯上さん

公共交通協議会を開催

公共交通のあり方について話す土井特任教授

9月24日(木)、市役所本庁で平成27年度第2回江田島市公共交通協議会が開催され、地域公共交通の新たな計画となる地域公共交通網形成計画について議論を行いました。

また、協議事項の後に、大阪大学コミュニケーション・デザインセンターの土井特任教授が講演を行いました。土井特任教授は、自身の経験を踏まえ、20年後の社会に責任を持つ社会構造が必要とし、自動車を利用しながらも上手に公共交通を利用することが必要と話しました。



生命(いのち)のメッセージ展開催

10月5日(月)〜9日(金)の間、市役所本庁1階ロビーで「生命(いのち)のメッセージ展」が開催されました。このメッセージ展は、犯罪被害者や交通事故等により、命を奪われた被害者の方の人型パネルと靴、遺された家族からのメッセージなどを展示しました。

これは、生きたくても生きれなかった被害者の方々の存在に思いを巡らし、生命(いのち)の大切さを考えていただくもので、犯罪被害者週間

に併せて、広島県内の各市町で順次開催されています。

また、その展示に併せて、2日(金)に市職員を対象にした講演会を開催しました。

講師に「NPO法人いのちのミュージアム」の山根和子さんを招き、ご自身の体験や「生命(いのち)のメッセージ展」がスタートした経緯を話し、行政内の各部署での犯罪被害者への配慮や、それを想定した事前の準備などの支援の受け皿作りの必要性を訴えました。



▶ ロビーに展示されたメッセージジャーナル(パネル)



▶ 犯罪被害者支援の必要性を訴える山根さん

災害時における畳の提供等に関する協定締結



9月25日(金)に、本市と「5日で5000枚の約束。プロジェクト」実行委員会との間で、災害時における畳の提供等に関する協定を締結しました。

この協定により、地震をはじめとする大規模な災害が発生した場合、市の要請で、「5日で5000枚の約束。プロジェクト」実行委員会へ加盟している全国の畳店から体育館等の避難所に新しい畳が無料で提供されます。

100歳を迎えられる方にお祝い状と銀杯を贈呈

本年度中に100歳を迎える市内の21人に対し、内閣総理大臣からのお祝い状と銀杯が贈呈されました。

このうち9月29日(火)に、誠心園で田中市長から、山口春枝さん、宮本スミエさん、沖元ミツエさん、石本隆さんの4人に手渡しました。

本市では、100歳以上の方が、この21人の方を含め、50人おられ、最高齢の方は107歳です。



▶ 市長からお祝い状などを贈呈された方々

三高小児童が稲刈り体験



▶ 稲刈りで汗を流す児童たち

10月7日(水)、沖美町三吉で三高小学校5年生の児童11人と教職員、保護者、地域のボランティアの方が、稲刈り体験を行いました。

この稲は、児童らが6月上旬に田植えを行い、草刈りなどをして大切に育てた稲で、きれいな黄金色の実が稲穂を垂らしていました。

児童たちは、田んぼに足をとられながらも一生懸命、稲を刈り取り、手伝いに来ていた同校2年生の児童に刈り取った稲を手渡していました。